

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年2月7日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676500087
法人名	医療法人 たからべ会
事業所名	グループホーム たからべ
所在地	鹿児島県曾於市財部町下財部1318番地9 (電話) 0986-72-1677
自己評価作成日	平成27年12月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成28年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①開設11年目に入り利用者の方も重度化して医療の必要性も増してきているなか、母体が医療法人であるため医療との連携がうまく取れている。
- ②スタッフ全員が正職員で、離職者が少なく入居者とのなじみの関係が良好に保たれている。
- ③県道2号線沿いにあるが、閑静な住宅街で周りが他の建物や樹木で囲まれたようになっているため風当りが弱く、高台でもある為水害の恐れもありません。
- ④職員の資格取得に対して協力的に推進している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当ホームは母体医療法人を中心に複数の福祉施設と共に、職員の交流や情報交換を行い、連携が取れている。
- ・協力医療機関との24時間医療連携体制が整っており、緊急時や必要時に医療を受けることができる。
- ・夏は学童保育の小学生がグループホームの利用者とゲームをしたり、幼稚園児が遊びに来て利用者も楽しみに会話などを行っている。
- ・職員は利用者の個性や要望をしっかり受け止めゆっくと向き合い、個々の支援ができています。
- ・年2回夜間想定で消防署の指導のもと避難訓練を実施している。母体医療機関でも年3回消火訓練を行っている。スプリンクラーを設置、自動通報装置の定期点検も行い、近隣にも協力をお願いしている。
- ・職員の資格取得に協力し、質の向上を目指している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	月に一回のミーティングにおいての確認。朝の申し送り前に唱和するようにしている。	母体法人の理念とは別に、ホーム独自の理念を職員全員で作成している。理念はホールやタイムレコーダー横に掲示し、毎朝の申し送り前に唱和している。毎月のミーティングにおいて確認し合い支援に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	裏の駐車場へ散歩、日光浴等で近隣の方との挨拶等行っている。隣の幼稚園児が時々遊びに来てくれる。	入所者は地元の住民が多く、散歩時に地域の人と挨拶を交わしたり、何かあった時、駆けつけて頂けるようお願いしている。毎月の法話に幼稚園児も参加して行われている。日常的に地域との交流があり、今後地域にホーム便り等を回覧する計画である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	ボランティアや見学の申し出があれば受けるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの意義や日々の生活状況をお話ししたり、質問等を受けたりしている。また参加の方々の住まいの地域での高齢化、限界集落の状況等のお話を伺ったりしている。	会議は定期的開催している。ホームの現状や行事の報告を行い、地域の情報や要望・質問等を聞き、提案をサービス向上に活かしている。認知症についてのお話をすることもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>小規模多機能・ホームの会にメンバーとして毎回参加している。運営推進会議に参加してもらい実情を伝えている。</p>	<p>行政の担当者とは書類提出時に連絡や報告・困難事例の相談や結果報告等を行い、連携ができている。面談にもホームに来てもらって情報の共有を図り協力関係ができている。地域のグループホームの集まりに行政も参加して情報交換を行っている。行政主催の研修会に積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>ホーム横が県道で交通量が多く危険なので玄関は夜間のみ施錠している。身体拘束廃止委員会で話し合いをしている。開設以来拘束実施の具体例はありません</p>	<p>身体拘束廃止委員会を3ヶ月ごとに行って、具体的な拘束行為や言葉の拘束等、事例を挙げて研修している。日中、玄関の施錠は開放し、見守りを強化して拘束の無いケアに全員で取り組んでいる。言葉は特に気を付けて、名前はさん付けで呼んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束廃止委員会で併せて虐待の意味を考えている。スキルアップ研修でも取り上げている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>ミーティングにおいて日常生活自立支援事業や成年後見制度をテーマに上げ知識を得たいと思う。現在該当する方はいな。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には二人以上の職員により、説明漏れ等無いよう、また疑問点の質問などしやすい雰囲気作りに努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族の方が面会、入金等で来所されたときストレートに、あるいはそれとなく要望、意見等聞き出し皆で情報を共有できるよう努めている。玄関に意見を伺う意見箱を設置している。</p>	<p>本人からはその都度の要望を聞き思いを把握している。家族からは面会時等に懇談をしている。利用者の担当を職員で決めて、毎月、便りや写真などを家族へ郵送し、日常の状況や健康状態などについて話し、家族からの希望や意見も聞いている。意見箱も設置している。意見は職員で検討しケアに活かしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者が常時ホームにいるので、何かあればその都度上げてもらう。すぐにできるものであれば、即実行している。	職員会議やミーティングで職員の意見を聞いたり、アイデアを運営に活かしている。長く勤務している職員が多く互いに意見や要望が言いやすい。非常口の段差解消を行ったり、カラオケについては検討中である。出された意見はケアに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人であるため給与水準、労働時間は変更できないが、日々の勤務に関しては柔軟に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部からの研修案内に対しては、テーマ毎の希望、あるいは順番に均等に研修に参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前述の「小規模多機能・ホームの会」あるいは市全体での研修会で情報交換したりしている。研修会帰りとかに他施設を訪問することがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に至る過程で家族、担当ケアマネ、サービス事業所等より入手した情報を元に本人の要望等に耳を傾けながら不安を抱かないよう語りかけ安心してもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が話しにくい事柄でも過去の類似事例、対応事例を挙げながら丁寧に密に連絡を取り合い不安を解消していく事に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としているサービスは継続し不可能であれば代替のものはないか本人家族と話し合い検討を図る。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に洗濯物をたたんだりお茶の葉のパック詰め、もやしのひげ根とり等、できる作業は声かけながら和やかにやっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への連絡、報告の際には季節の話題や最近の本人の状況等を交え情報を共有し本人を支えていく努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	旧知の友人、集落の方等面会に来てくださる方には謝意を表し次回に繋がるようにしている。ただ時間の経過、認知の進行に伴いそれらも薄れる傾向にある。	兄弟や親戚・友人が面会に来られた時等、居室を開放して楽しく話が進むように配慮している。ドライブで馴染みのところに時々出かけることもある。家族の協力を得て自宅訪問や墓参り・馴染みの店での買い物・理美容院に行く等、関係を継続している。近所の美容院より来てもらう場合もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性の強さがぶつかる事もあるので早めに察知しクッション役を果たす。物理的な位置関係も考慮する。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去し入院された方には折にふれ見舞って近況を伺ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望、意向に添えるよう努めている。意思表示が難しい方は生活歴や家族からの情報を参考にしている。	入所時に本人や家族の話から意向や思いを把握している。医療機関を受診した時や夜勤などの時に話しが出来ることもある。日常生活が満足できるように、コミュニケーションを図っている。意思表示が困難な利用者は、家族や関係者と話し合い本人中心の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居のとき家族やこれまで関わってこられた方々から情報提供していただき記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	決まった流れの中で違和感ある言動等感じたら、要チェックとする。定時のバイタルチェックを行い記録し情報共有を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見・意向を取り入れミーティングの際職員の見解交換をし、計画を作成している。	本人や家族から要望や意見を聞き、かかりつけ医の意見を基に職員会議で話し合い介護計画を作成している。モニタリングは6ヶ月毎に行い、途中変更があれば見直している。家族へは事前に情報交換を行い確認している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の健康状態、バイタルは記録し共有はできている。ケアに対し気づいた点、工夫が必要になったときはカンファレンスやミーティングなど検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時々ニーズがあれば、柔軟な対応ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議やグループホーム小規模多機能の会、研修に参加し情報交換に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診と緊急時の受診、入院対応等スムーズにできている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診となっている。受診は職員が同行して主治医に身体状況の説明を行い指示を仰いでいる。かかりつけ医は1ヶ月に1回の往診がある。協力医療機関とは24時間医療連携体制が整っている。適切な医療を受けられるように連携を取っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日々の関わりの中にとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	何かあれば職場内の看護職員に報告し相談している。かかりつけ医に定期的に受診し相談もできている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院の際は病院や家族と頻回に連絡を取り情報交換できている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	本人の状態を家族に説明しかかりつけ医と相談しながら情報を共有している。	入所時に重度化や終末期に向けた方針を説明し、同意をもらっている。重度化になってきたら段階的に家族と話し合いをしている。かかりつけ医から説明してもらい、希望を確認して支援している。看取りについては、希望があれば支援できるように研修に努めている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	もしものときに備えてミーティングの時対応の方法について話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練や消火訓練を実施し、近隣の方にも万ーの場合の協力をお願いしてある。</p>	<p>年2回夜間想定で消防署の指導のもと避難訓練を実施している。母体医療機関でも年3回消火訓練を行っている。スプリンクラーを設置、自動通報装置の定期点検も行っている。近隣にも協力をお願いしている。災害時はヘルメットや懐中電灯・コンロ等を、備蓄については水やインスタント食品・缶詰・レトルト食品を3日分準備している。避難用具もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者に合わせた声かけ対応をし周りに気を配っている。	日常生活の中で入浴や排せつ時の言葉かけはさり気なく行い、入室のノックにも心を配り、プライバシーの確保に配慮している。申し送りは、利用者の個人名は避け記号で行い、利用者同士のいさかいにも人格を尊重して、個々に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活での会話の中から本人の思いや考えを把握し寄り添えるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れがあるが、希望があれば、対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節感のある服の中から本人の好みの服を選んで着てもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使うことを心がけている。その時々で行事食を提供したり好みを聞いてメニューに取り入れるよう努めている。食後の食器もお盆に集めてもらっている。	個々の希望や好みを聞いて誕生日会には刺身を出したり、ラーメンの出前を取ったり、家族と外食したり行事食を楽しんだり、弁当持参で花見に行ったりして、食事を楽しむことができるように支援している。利用者の個々の力量に応じて、下ごしらえや食後の食器を寄せてもらったりテーブル拭きを行っている。買い物と一緒にいき自分の好きなものを買うときもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態が違う人が複数人いるので、配膳時混乱しないようお盆に一人分をセットしスムーズに提供できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い義歯の場合週2回消毒、洗浄している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各入居者の排泄パターンを把握しトイレ声かけ誘導を行っている。	チェック表で個々のパターンを把握し、排泄の記録を行っている。タイミングをみて声かけや誘導を周りにできるだけ気づかれないように支援し、トイレでの排泄を支援している。昼間はトイレへの誘導をして自立支援のケアをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分の摂取量チェックを行いレクで体操など取り入れるよう努めている。排尿排便チェックも行い主治医の指示のもと緩下剤での調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	既定の入浴日課があるが、希望があればそれにとらわれず、柔軟な対応に心がける。	入浴は週3回で午後を基本にしているが、希望があれば毎日でも入浴可能である。シャワー浴や湯をかける方法が好まれている。入浴拒否の利用者にはタイミングを見て誘導したり、時間をずらしたり、担当職員を交代する等、無理強いはしないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動と休息がバランスよく取れるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬、服薬管理は全職員で行っている。薬の変更があればその後の状態の変化にも気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換に園庭に散歩に出かける。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	季節の移り変わりを感じてもらおうと近辺へのドライブを提案し、希望があれば実施している。	日常的には近隣の散歩やテラスでお茶を飲みながら話している。希望を聞き、カライモ掘りやミニドライブで鶴を見に行ったり、季節感を味わったりして気分転換を行っている。家族の協力を得て、墓参りや自宅訪問・外食に出かけている。ホームの花見や初詣で行っている。家族と毎月外食に行く利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大きな金額はホームで預かり本人希望のものがあれば、そのお小遣いより購入している。現入居者では所持希望の方はいらっしやらない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族に電話をかけたいと要求があればそのように計っている。家族より電話あれば取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には長椅子を置き、会話のできる空間になっている。又玄関や食堂では季節感を感じるように、写真や季節の物を飾っている。冬場は日光浴でにぎわっている。	共用空間は、明るく広いスペースで温度・湿度に配慮され、加湿器もあり空気調整がされている。手作りのテラスがありお茶を呑んだり日光浴を楽しむ工夫もしてある。花などの飾り付けで季節感が出ている。壁には行事の写真や折り紙等の作品が飾られ、楽しい雰囲気、穏やかに過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ではテレビを囲み、時代劇を見たり新聞や、チラシを見て過ごしている。気の合った同士は談話を楽しまれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた箆笥や棚を置きベッドも本人の希望を聞き動きやすい位置に移動し、居心地良く過ごせるようにしている。病院・施設から来られる方は既成品の利用が多い。</p>	<p>居室はベッドやエアコン・ロッカーが備え付けで、寝具はリース使用である。個々に仏具や位牌・タンス・椅子・毛布を持ち込み、家族の写真やレクリエーションの作品などが飾ってある。馴染みの洋服かけや引き出しを置いて、暮らしやすくしている。家族が訪問してその人らしく暮らせるように配置されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや自室は分かるように表札をつけたり目印をつけたり本人が作ったものを飾ったりしている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない